

本公演は、2011年の東日本大震災の発生以降、国立民族学博物館で継続的におこなってきた支援研究「東日本大震災等大規模災害に関わる人間文化研究」から引き継いだ「東日本大震災等、大規模災害の記憶継承及び被災地における人間文化研究」および、特別展「工芸継承—東北発、日本インダストリアルデザインの原点と現在」の関連企画として実施するものです。

当館では、東日本大震災以降、三陸沿岸の郷土芸能、あるいは三陸沿岸部をテーマとしたドキュメンタリー映画の上映をおこなってきました。今回は、少しずつですが、復興の途につきつつある東北被災地のさらなる復興を願い、思いを寄せることをテーマに三陸沿岸にゆかりのあるアーティストをお招きしました。

プログラム

13:00-13:05 開会挨拶 (吉田 憲司 国立民族学博物館長)

13:05-13:10 趣旨説明 (日高 真吾 国立民族学博物館)

13:10-15:10 公演 (濱守 栄子、絵美夏)

15:10-15:30 休憩

15:30-16:20 パネルディスカッション

「東北の復興を願って

— 夢、希望、想いをこめて」

パネリスト：濱守 栄子、絵美夏、中澤 宗幸

コーディネーター：日高 真吾

16:20-16:30 公演 (濱守 栄子、絵美夏)

16:30-16:35 閉会挨拶 (日高 真吾)

東北の復興を 願って 夢、希望、想いをこめて

Wishing for Rehabilitation of Tohoku:
with Dreams, Hopes, and Feelings

開催日 2018年 10月28日(日)

会場 国立民族学博物館 本館1階 エントランスホール

・事前申込不要 ・参加無料 ・参加者多数の場合は立ち見となる場合があります。



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

東北の復興を願って 一夢、希望、想いをこめて

Wishing for Rehabilitation of Tohoku: with Dreams, Hopes, and Feelings

開催日 2018年10月28日(日)

会場 国立民族学博物館 本館1階 エントランスホール



濱守 栄子

(はまもり えいこ)
シンガーソングライター

Hamamori Eiko

岩手県大船渡市出身のシンガーソングライター。2009年CD全国デビュー。さんりく・大船渡ふるさと大使。言葉や歌をとおして、「命の尊さ」「夢を持つことの楽しさ」を発信し、活気ある社会の実現を目指している。現在、CDの売上とコンサートの収益の一部から、大船渡市と陸前高田市に1000万円を目標に寄付する活動を続け、その金額は750万円を超える。

また、これらの活動について両市長より推薦状が送られている。



絵美夏

(えみか)
ヴァイオリニスト

Emika

岩手県紫波町出身、現在、盛岡市在住。幼少時代からクラシックを学び20歳で渡米し、ゴスペル・ジャズ・サンバ・ボサノバ・ラテンを勉強する。岩手県観光協会「つなげる・つながる・まごころ運動」に参加。

また、陸前高田市の被災松でつくられたヴァイオリンによるTSUNAMIヴァイオリンプロジェクト「千の音色でつなぐ絆」に県内のヴァイオリニストとして出演。



中澤 宗幸

(なかざわ むねゆき)
弦楽器製作者・修復家

Nakazawa Muneyuki

兵庫県に生まれる。ヨーロッパにて弦楽器の修復技術を学ぶ。1980年、東京に工房を開く他、音楽祭等をプロデュースし文化活動の輪を広げる。2011年、兵庫県知事より文化功労賞受賞。

2012年、東日本大震災による瓦礫からヴァイオリンを製作。鎮魂と記憶に留める運動「千の音色でつなぐ絆」プロジェクトを展開。著書に『いのちのヴァイオリン 森からの贈り物』(ポプラ社 2012年)他。



日高 真吾

(ひだか しんご)
国立民族学博物館 准教授

Hidaka Shingo

(財)元興寺文化財研究所研究員を経て、2002年より現職。博士(文学)。民俗文化財の保存修復方法、博物館における資料保存に関する研究をおこなう。主な著書、編著書に、『女乗物—その発生経緯と装飾性』(東海大学出版会 2008年)、『記憶をつなぐ—津波災害と文化遺産』(千里文化財団 2012年)、『災害と文化財—ある文化財科学者の視点から』(千里文化財団 2015年)がある。

研究公演の情報はこちら

<http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/slp/20181028>

みんぱく 研究公演 検索

